



# 中部人懇だより

令和6年度 第3号  
令和6年10月発行  
中部地区人権教育懇談会



「中部人懇」とは「中部地区人権教育懇談会」を略した呼び方です。被差別部落の完全解放をめざし、中部地区同和教育の推進を図ることを目的に、1971年(昭和46年)に発足しました。半世紀以上の歴史ある会です。

10月15日(火)に、幼児教育の先生方を対象(参加者53名)として、第3回中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を報告します。

## 実践発表

### 「一人一人の育ちの応援団」

～北栄町幼児通級指導教室で出会ったこどもたち～

発表者 北栄町教育総務課 発達支援室  
主幹兼指導主事 甲斐 真紀 氏



幼児通級指導教室で大切にしていることとして、「子育て・親育ち・支援の般化を大切にしており、それを実現するためには、園との連携は不可欠であること」「事例を通して、アセスメントを活かして園での支援を考えること」「子どもの姿を通して、保護者とのつながりを深められるように支援すること」などの話をしてくださいました。今後も、多面的な幼児理解をもとに、個に応じた支援が図れるよう、園や保護者と連携し、園児の自己肯定感を高めらえるよう応援していきたいということも発表の中で伝えていただきました。



## 実践発表

### 「ぼくは、にじぐみ」

～特別な配慮を必要とする園児を中心にした保育～

発表者 琴浦町立こがねこども園  
係長 西村 ひとみ 氏



昨年度5歳児担任をされた中で、「加配保育教諭と連携したこと」「個と集団をつなぐために配慮したこと」「基礎的環境整備と合理的配慮の実践」について発表されました。「園児と関わる中で、今まで当たり前という固定概念を自身が持っていたこと」「特別な配慮を必要とする園児に思いを寄せることが温かいつながりを生むことになる」など実践の中で感じたことを事例を交えながらお話くださいました。発表の中では、加配保育教諭と主担任の連携の具体や、全職員で話し合い連携を図ったことなども話をされました。どの子どもにとっても、主担任だけでなく、様々な立場の方が関わるということが重要だということに気づかせていただきました。



## 情報交換より

### ◆実践発表を聞いて、今後大切にしていきたいこと

- ・職場のみんなで話し合い、連携していくことの大切さを改めて感じた。
- ・支援のベストはなかなか見つけられないが、個への支援や声かけだけでなく、集団への声かけも大切にしていきたい。
- ・日々の自分自身の保育を振り返りたい。(一人一人を大切に保育したい。)
- ・子どもたちの困り感に意識がいきがちだが、子どもを変えていくより自分自身の関わりを変えていきたい。

## 参加者の振り返り(一部)

- 子どもが失敗しないように、困らないように先回りして支援してしまいがちだが、「困ったときにどう対応していくかの力」を子ども自身につけていきたい。
- 子どもたちの「できるようになりたい」という気持ちを育てていきたい。
- 子どもを育てていくのは、保育者だけでも、保護者だけでもない。子ども一人一人が輝けるために、その輝きを見逃さないようにし、保護者と子どもの姿を共有できるようにしていきたい。
- 個別配慮、集団の中で子どもたちの良さを発揮することのバランスを図りながら保育をしていきたい。
- 子どもたちが、大事にされているという気持ちがあると、他の人に対しても大事にしようとするのを心にとめおきながら、日々の保育をしていきたい。
- 特別な配慮を必要とする園児を中心にした保育は、温かいクラスづくり、集団としての育ちにもつながると感じた。